

1 わたしたちの住んでいる市のようす

配当時間 全 18 時間
学習時期 4～6月 教科書 P.8～41

小単元「1 わたしたちの住んでいる市のようす」のねらい

身近な地域や市区町村の様子について、都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、身近な地域や市の様子をとらえるとともに、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解することができる。

小単元「1 わたしたちの住んでいる市のようす」について

生活科での学習や生活経験を手がかりに市の様子について関心をもたせ、「学校のまわり」の様子から姫路市の特色ある地域へと調べる範囲を広げ、公共施設の位置と働きや古い町並みが残るところの様子、場所による土地利用の違いなどを具体的に調べる展開とした。終末では、作成した白地図や土地利用図、衛星写真などを活用して学習問題について話し合い、姫路市ガイドマップを作成する構成にした。

小単元「1 わたしたちの住んでいる市のようす」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1 学期	4 月	大単元の導入 ①	・航空写真を手がかりに、市の特色ある地形や土地利用の様子などを概観し、わたしたちが住むまちのどこにどのようなものがあるのか関心をもつことができる。	【知・技】 航空写真を手がかりに、市の特色ある地形や土地利用の様子などについて気づいたことや気になることを見つけている。
			姫路市のようすを調べる ①	・生活科での学習や生活経験、住所などを手がかりに、わたしたちが住んでいるまちがどのようなところにあるのか関心をもつことができる。	【主体的】 生活科での学習や生活経験、住所などを手がかりにし、わたしたちが住んでいるまちがどのようなところにあるかについて関心をもっている。
			姫路市を調べる計画を立てる ①	・市の様子について話し合い、わたしたちの住むまちや市の様子について学習問題をつくり、調べる計画を立てることができる。	【主体的】 予想を話し合い、わたしたちの住むまちや市の様子について学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。
			学校のまわり～見学の計画を立てる～ ①	・学校のまわりの様子を詳しく調べるために、調べたいことや調べる方法を明確にし、見学の計画を立てることができる。	【主体的】 学校のまわりの様子を詳しく調べるために、調べたいことや調べる方法を明確にし、見学の計画を立てている。
			学校のまわり～見学～ ②	・学校のまわりの様子を調べるために見学に出かけ、観察したりインタビューしたりして気づいたことやもっと知りたいことを見学カードにまとめることができる。	【思・判・表】 学校のまわりの見学に出かけ、観察したりインタビューしたりして気づいたことを見学カードにまとめている。
			学校のまわり～調べたことを整理する～ ②	・学校のまわりの様子について、前時に作成した見学カードをもとに白地図にまとめ、教師が作成した地図と見比べて、地図記号や方位を使うことよさを理解することができる。	【知・技】 学校のまわりの様子について、前時に作成した見学カードをもとに白地図にまとめ、教師が作成した地図と白地図を比べ、地図記号や方位を使うことよさを理解している。
		5 月	姫路駅のまわり ①	・駅周辺の写真や地図、交通図などから、人が多く集まるところと交通の便のよさとの関係を読み取り、理解することができる。	【知・技】 姫路駅周辺に人々が集まるのは、周辺の施設の充実だけでなく、交通の便と関係が深いことをとらえ、そのよさによって、より多くの人が集まることを理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……身近な地域や市区町村の様子について、観察・調査したり、地図などから読み取ったりして、白地図などにまとめ、都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がりなど、身近な地域や市区町村の様子について理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む** ……身近な地域や市の様子について、学習の問題を意欲的に追究するとともに、これまでの学習を振り返り、地域社会についての理解を踏まえて、市区町村に対する誇りや愛情を高めている。

前期	1 学期	5 月	6 月	
前期	1 学期	市役所やみんながりようすのしせつがあるところ ①	・地図や写真、「市役所の案内所の人の話」などから、公共施設の位置や働きについて理解することができる。	【知・技】 地図や写真、「市役所の案内所の人の話」などから、市役所など主な公共施設の位置や働きについて理解している。
		古い町なみがのこるところ ①	・地図や写真、「観光案内所の人の話」などを読み取り、市に古くから残る建造物や伝統的な町並みの位置や広がり、町名のいわれなどについて調べ、理解することができる。	【知・技】 写真や地図、観光案内所の人の話などを手がかりに、市に古くから残る建造物や伝統的な町並みの位置や広がり、町名のいわれなどについて、理解している。
		田や畑が多いところ ①	・地図や写真、「農業振興センターの人の話」などを読み取り、平らな土地と川や池の水を生かした土地利用の様子と人々の生活を関連づけて考え、適切に表現することができる。	【思・判・表】 自然が豊かで田や畑が多いところを調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連づけて考え、表現している。
		山にかこまれたところ ①	・山に囲まれ、自然豊かな森林が多いところの様子を調べ、豊かな自然を生かした林業や観光など、土地利用の様子と人々の生活を関連づけて考え、適切に表現することができる。	【思・判・表】 自然が豊かで森林が多いところを調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連づけて考え、表現している。
		海に近いところ ①	・海に近いところの様子について、工場が多い理由を調べ、土地利用の様子が地形条件や社会的な条件と関わりがあることを考えることができる。	【思・判・表】 海に近いところの様子について、工場が多い理由を調べ、土地利用の様子が地形条件や社会条件と関わりがあることを考え、表現している。
		まわりを海にかこまれているところ ①	・まわりを海に囲まれた島の様子について調べ、土地利用の様子が地形条件や社会的な条件と関わりがあることを考えることができる。	【思・判・表】 まわりを海に囲まれた島の様子について調べ、土地利用の様子を人々の生活と関連づけて考え、表現している。
	6 月	姫路市を地図にまとめる ①	・市は場所によって違いがあることを理解し、場所による違いを白地図に色分けしてまとめ、県内における市の位置を確かめることができる。	【主体的】 土地利用図や航空写真などの資料から、市の様子は場所によって違いがあることを理解し、白地図を色分けしたり、地図記号を使ってまとめたりしている。
		姫路市のようすについて話し合う ②	・これまでの学習を振り返り、場所による市の様子の違いについて話し合い、自分の考えたことをガイドマップにまとめ、表現することができる。	【思・判・表】 これまでに学習した市の場所による違いを話し合い、住んでいる市の様子をガイドマップにまとめ、表現している。

1 工場ではたらく人びとの仕事 配当時間 全9時間 教科書 P.44～59
学習時期 6～7月

小単元「1 工場ではたらく人びとの仕事」のねらい

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえるとともに、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっておこなわれていることを理解することができる。

小単元「1 工場ではたらく人びとの仕事」について

身近なかまぼこについて疑問を出し合って学習問題をつくり、かまぼこづくりの工程、かまぼこ工場で働く人々の仕事の様子、立地や出荷について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、おいしくて安全なかまぼこをつくる人々の努力と工夫が自分たちのくらしを支えていることを理解する構成にした。終末では、かまぼこのよさを知ってもらうために、パンフレットを作成して、学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う展開にしている。

小単元「1 工場ではたらく人びとの仕事」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	6月	大単元の導入 ①	・工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとに話し合うことを通して、自分たちの市で働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりなどに関心をもつことができる。	【主体的】 工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとにした話し合いを通して、自分たちのまちで働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりに関心をもっている。
			わたしたちの市でつくられているもの ①	・市内にある主な工場の地図や販売されている製品の写真をもとに、自分たちの市でつくられているかまぼこに関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	【主体的】 自分たちの市でつくられているかまぼこに関心をもって学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。
			かまぼこづくりの調べ方を話し合う ①	・かまぼこの袋や工場の模式図などから、原材料や主なつくり方を予想しながら、さらに調べたいことを話し合うことで、工場見学の計画を立てることができる。	【主体的】 工場見学にあたって、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理して見学の計画を立てている。
		7月	かまぼこができるまで ②	・かまぼこ工場の見学や工場働く人へのインタビュー、パンフレットをもとにして、かまぼこができるまでの工程を理解することができる。	【知・技】 かまぼこ工場を見学してわかったことやインタビュー、工場見学の際にもらったパンフレットをもとにして、かまぼこができるまでの工程を理解している。
			はたらく人のようす ①	・安全でおいしいかまぼこづくりをおこなっているかまぼこ工場や、そこで働いている人々の様子について、見学ノートをもとに話し合い、考えを深めることができる。	【思・判・表】 安全でおいしいかまぼこづくりをおこなっているかまぼこ工場や、そこで働く人々の様子について話し合い、考えをまとめている。
			山の中にあるかまぼこ工場 ①	・工場の立地を調べる活動を通して、海の近くから山の中へ移ってきたことを、かまぼこの原料や運び方、自分たちの市の地形や交通の様子に着目して考えることができる。	【思・判・表】 かまぼこ工場が、広い土地ときれいな水を求め、高速道路にも近い現在の場所へ移ってきたことを、原料や運び方、市の地形や交通の様子と関連づけて考え、表現している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域に見られる仕事について、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっておこなわれていることを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえ、地域に見られる生産の仕事と人々の生活との関連を考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……地域に見られる生産の仕事について、学習の問題を意欲的に追究するとともに、学習成果をもとに生活の在り方や地域社会の発展について考え、地域社会に対する愛情や、地域社会の一員としての自覚を高めている。

前期	1学期	7月	かまぼこはどこへ ①	・かまぼこの出荷について調べたことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解することができる。	【知・技】 かまぼこの出荷についてわかったことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解している。
			かまぼこのよさを知らせる ①	・これまでに調べた具体的な事実や、調べたことから考えたことなどを工夫して表現することで、かまぼこの生産と自分たちのくらしとのつながりについて考えることができる。	【思・判・表】 かまぼこのよさを知らせるポスターづくりを通して、かまぼこの生産とわたしたちのくらしとの関連を考え、表現している。

1 畑ではたらく人びとの仕事（選択単元） 配当時間 全9時間 教科書 P.44～45
学習時期 6～7月 P.60～73

小単元「1 畑ではたらく人びとの仕事」のねらい

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえるとともに、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっておこなわれていることを理解することができる。

小単元「1 畑ではたらく人びとの仕事」について

給食で使われるれんこんについて疑問を出し合って学習問題をつくり、れんこん畑で働く人々の仕事の様子、大津区でれんこん作りがさかんな理由、れんこんの出荷について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、おいしいれんこんを作る人々の努力と工夫が自分たちのくらしを支えていることを理解する構成にした。終末では、れんこんのよさを知ってもらうために、パンフレットを作成して、学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う展開にしている。

小単元「1 畑ではたらく人びとの仕事」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	1学期	6月	大単元の導入 ①	・工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとに話し合うことを通して、自分たちのまちで働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりなどに関心をもつことができる。	【主体的】 工場や田畑、商店で働く人の写真や生活経験をもとにした話し合いを通して、自分たちのまちで働く人々の様子や工夫、自分たちのくらしとのつながりに関心をもっている。
			わたしたちの市で作られているもの ①	・市内で作られているおもな農作物の地図や市の市場に多く入荷されている農作物のグラフなどから、自分たちの市で作られているれんこんに関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。	【主体的】 自分たちの市で作られているれんこんに関心をもって学習問題をつくり、調べる計画を立てようとしている。
			れんこん作りの調べ方を話し合う ①	・れんこん畑の様子や道具、服装の写真などから、れんこん作りについて疑問に思ったことを出し合い、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理し、見学の計画を立てることができる。	【主体的】 れんこん畑の見学にあたって、「見て調べること」と「聞いて調べること」に整理して見学の計画を立てている。
		7月	れんこん作りの仕事を見学する ②	・れんこん畑を見学したことをもとに、れんこん作りの作業について順序よくまとめ、作業の工程や目的を理解することができる。	【知・技】 農家の人がれんこんを作るためにおこなっている作業の工程や目的などを理解している。
			れんこん作りのくふう ①	・れんこんを育てるときに気をつけていることや工夫について、農家の人の話をもとに話し合い、考えを深めることができる。	【思・判・表】 質のよいれんこんを作るためにおこなっている作業や工夫、努力などについて話し合い、考えをまとめている。
			れんこん作りのさかんな大津区 ①	・大津区でれんこん作りがさかんな理由を、地理的条件と歴史的背景を関連づけて理解することができる。	【知・技】 大津区の土地がれんこん作りに適した自然環境であることや、昔の人が種れんこんを伝えたことから、れんこん作りがさかんな理由を理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域に見られる仕事について、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもっておこなわれていることを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえ、地域に見られる生産の仕事と人々の生活との関連を考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……地域に見られる生産の仕事について、学習の問題を主体的に解決しようとするとともに、学習成果をもとに生活の在り方や地域社会の発展について考え、地域社会に対する愛情や、地域社会の一員としての自覚を高めている。

前期	1学期	7月	れんこんはどこへ ①	・れんこんの出荷について調べたことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解することができる。	【知・技】 れんこんの出荷についてわかったことを白地図にまとめ、わたしたちの生活や他地域とのつながりを理解している。
			れんこんのよさを知らせる ①	・これまでに調べた具体的な事実や、調べたことから考えたことなどを工夫して表現することで、れんこんの生産と自分たちのくらしとのつながりについて考えることができる。	【思・判・表】 れんこんのよさを知らせるポスターづくりを通して、れんこんの生産とわたしたちのくらしとの関連を考え、表現している。

2 店ではたらく人びとの仕事

配当時間 全 11 時間
学習時期 9～10月 教科書 P.74～91

小単元「2店ではたらく人びとの仕事」のねらい

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子をとらえるとともに、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫しておこなわれていることを理解することができる。

小単元「2店ではたらく人びとの仕事」について

まず、子どもが知っている様々な店について紹介し合う活動の後、買い物調べをおこなって学習問題を設定する。そして、スーパーマーケットでの見学やインタビューなどを通して調べたことを、見学カードや白地図にまとめる展開としている。終末では、客の願いと店の工夫の関係をまとめる活動を通して学習問題について話し合い、販売の工夫は客の多様な願いを踏まえていることを理解し、自分たちの考えを深め合う活動を展開している。

小単元「2店ではたらく人びとの仕事」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
前期	2学期	9月	知っている店をしようかいし合う ①	・生産の仕事の学習や日常生活における買い物の経験を話し合い、地域には様々な店があることや、身近な人の買い物調べに意欲をもつことができる。	【主体的】 どの店でどんな品物を買うかについて疑問をもち、友だちと話し合いながら調べ方を考えようとしている。
			買い物をしている店を調べる ①	・自分の家の人の買い物の仕方について調べた結果を、表にまとめ、特徴を読み取ることができる。	【知・技】 買い物調べの結果を図にまとめ、家の人がどのような買い物をしているか特徴を読み取っている。
			スーパーマーケットのくふうを予想する ②	・スーパーマーケットの絵から、店の様子を読み取り、なぜそのような様子になっているのかを考え、考えたことや疑問に思ったことをもとにして、見学で調べたいことや調べ方を考えたりすることができる。	【思・判・表】 スーパーマーケットの絵から、店の様子を読み取り、店の工夫を予想したり、疑問に思ったことを話し合ったりする活動を通して、何をどのように調べるかを具体的に考え、整理している。
			店内のようすを見て調べる ①	・スーパーマーケットの売り場を見学して、多くの客を集めるためのスーパーマーケットの工夫についての情報を集めることができる。	【知・技】 スーパーマーケットの売り場を見学して見つけたことや疑問に思ったことを、見学カードに書き、情報を集めている。
			インタビューをして調べる ②	・スーパーマーケットで働く人の話を聞いて必要な情報を集め、店で働く人の工夫について理解することができる。	【知・技】 スーパーマーケットで働く人の話を聞いて必要な情報を集め、店で働く人の工夫について理解している。
			そのほかのくふうを調べる ①	・スーパーマーケットでの見学や聞き取りを通して、品物を売ること以外の店の取り組みや工夫について理解することができる。	【知・技】 スーパーマーケットでの見学や聞き取りを通して、品物を売ること以外の店の取り組みや工夫について理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域に見られる販売の仕事について、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫しておこなわれていることを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子をとりえ、それらの仕事に見られる工夫を考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……地域に見られる販売の仕事の工夫について、学習の問題を意欲的に追究するとともに、学習成果をもとに生活の在り方や地域社会の発展について考え、地域社会の一員としての自覚を高めている。

後期	2学期	10月	品物の産地を調べる ①	・スーパーマーケットで売られている品物の産地について調べ、白地図にわかりやすく工夫してまとめることができる。	【主体的】 スーパーマーケットで売られている品物の産地について調べ、白地図に工夫してまとめている。
			スーパーマーケットのくふうをまとめよう ②	・たくさんの客が買い物に来る理由について、客の願いとスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連づけて考えることができる。	【思・判・表】 たくさんの客が買い物に来る理由とスーパーマーケットで働く人の工夫とを関連づけて考え、表現している。

1 火事から人びとを守る

配当時間 全 10 時間
 学習時期 10～11 月 教科書 P.94～111

小単元「1 火事から人びとを守る」のねらい

地域の安全を守る働きについて、消防署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえるとともに、関係機関の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解することができる。

小単元「1 火事から人びとを守る」について

消火活動のイラストや火事の件数や原因などのグラフ資料をもとに、学習問題をつくり、学習計画を立て、消防署では少しでも早く出動するための工夫や施設・設備の点検、訓練などを行っていることや、学校や地域の消防設備や消防団の取り組みなどについて調べ、地域の安全を守る関係諸機関の働きや人々の工夫や努力について考える構成にした。

そして、地域の安全な暮らしを守るために自分たちは何ができるかを考え、友達との対話を通して、さらに考えを深める展開としている。

小単元「1 火事から人びとを守る」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2 学期	10 月	大単元の導入 ①	・火事や交通事故から人々の安全を守る消防署や警察署、地域の人々の働きに関心を持ち、「きけんカード」に身近にある危険なことや場所を表現することができる。	【主体的】 火事や交通施設などの写真を見て、地域の人々の安全な暮らしを守る諸活動について関心をもっている。
			わたしたちの市の火事を調べる ①	・火事による人の被害や火事の件数などについて話し合うことで、消防署の仕組みや働く人々に関心を持ち、調べたいことを学習問題にして、学習計画を立てることができる。	【主体的】 消防隊員だけでなく様々な機関が協力して消火活動にあたっている様子をとらえようとしている。
			消ぼうしよへ見学に行こう ②	・消防署を見学し、火事に素早く対応するための消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つけ、調べることができる。	【思・判・表】 見学や聞き取りをおこない、消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つけ、見学カードやノートにまとめている。
			119 番のしくみを調べよう ①	・119 番通報の仕組みを調べ、火事に素早く対応できる通信指令室の役割や関係機関との協力体制について考えることができる。	【思・判・表】 119 番の仕組みを調べることを通して、消防本部の通信指令室の役割や関係諸機関との連携・協力体制について考え、適切に表現している。
		11 月	消ぼうし隊員の仕事 ①	・消防署で働く人々が日ごろから防災のためにおこなっている工夫や努力について考え、適切に表現することができる。	【思・判・表】 消防署で働く人々が日ごろから防火・防災のためにおこなっている様々な仕事やその一つ一つの目的、仕事への思いを考え、適切に表現している。
			琵琶湖や高速道路などへの出動 ①	・琵琶湖や高速道路などへの出動や救急活動の様子を、消防署の人の話や資料などで調べ、消防署の人々の仕事の工夫や努力を理解することができる。	【知・技】 琵琶湖や高速道路などへの出動や救急活動に取り組む隊員の工夫や努力などについて、地図や「水難救助隊員のメール」を読み取り理解している。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域の安全を守る消防署などの働きについて、見学・調査したり、資料で調べたりしてまとめ、消防署で働く人々や関係諸機関が、相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火事などの災害の防止に努めていることを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……施設・設備の配置、緊急時への備えや対応に着目して、地域の人々の安全を守る消防署や関係機関、地域の人々の諸活動をとらえ、相互の関連やそこで従事する人々の働きを考え、調べたことや考えたことを表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……火事に備えて、地域の安全は互いに協力したり、ともに助け合ったりして守ること、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であるという自覚をもっている。

後期	2 学期	11 月	学校や地いきを火事から守るために ①	・学校や地域の消防設備を調べ、その配置図をもとに話し合う活動を通して、学校や地域には、消防設備が整備されていることを理解することができる。	【知・技】 学校や地域における火事に備えるための設備について調べ、白地図にまとめるとともに、その配置図からどのような備えがあるのかを読み取っている。
			地いきの消ぼうし ①	・地域の消防団の働きを調べ、地域を守ろうとしている消防団の人々の思いを考え、「さらに考えたい問題」を考えることができる。	【主体的】 消防団の人々の地域を自分たちで守ろうとする思いをふまえ、自分たちにはできることは何かを考えようとしている。
			自分の考えを深めよう ①	・今までの学習を振り返り、カードなどにまとめ、火事から暮らしを守るためにできることを考え、話し合い、深めることができる。	【思・判・表】 友だちの意見のよいところをもとに話し合うことで、自分の考えを見直し、深めた考えを適切にまとめている。

2 交通事故や事件から人びとを守る

配当時間 全7時間
学習時期 11～12月 教科書 P.112～125

小単元「2交通事故や事件から人びとを守る」のねらい

地域の安全を守る働きについて、警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえるとともに、関係機関の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解することができる。

小単元「2交通事故や事件から人びとを守る」について

交通事故や事件についての資料をもとに、市民の安全を守る警察署の取り組みについて見通しをもって調べるとともに、学校のまわりの安全を守る施設や設備、地域の人々の取り組みについて調べ、地域の安全を守る関係諸機関の働きや人々の工夫や努力、法やきまりを考える構成にした。

そして、地域の安全な暮らしを守るために自分たちは何ができるかを考え、友達との対話を通して、さらに考えを深める展開としている。

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……地域の人々の安全を守る警察署などの働きについて、見学・調査したり、資料で調べたりしてまとめ、警察署で働く人々や関係諸機関が、相互に連携して緊急時に対処していることや、地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……施設・設備の配置、緊急時への備えや対応に着目して、地域の人々の安全を守る警察署や関係機関、地域の人々の諸活動をとらえ、それらが相互に関連していることやそこで従事する人々の働きを考え、関係図や文章にまとめることで表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……交通事故などに備えて、地域の安全は互いに協力したり、ともに助け合ったりして守ること、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であるという自覚を高めている。

小単元「2交通事故や事件から人びとを守る」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価基準）

後 期	2 学 期	11 月	身近な交通事故や事件 ①	・交通事故現場のイラストや写真資料から交通事故や事件に関心をもって学習問題をつくり、交通事故や事件をなくすために関わっている人々や機関の様子について調べる見通しをもつことができる。	【主体的】 交通事故や事件をなくすために働いている人々に関心を持ち、安全なまちにするための働きや仕組みを調べる見通しをもっている。
			交通事故がおこったら ①	・交通事故が起きたときの緊急に対応する110番の仕組みや人々の取り組みについて理解することができる。	【知・技】 警察署の働きや110番の仕組みを理解し、安全なまちづくりへ向けた働きが身近にあることに気づいている。
	12 月	地いきで見かけるけいさつしよの人の仕事 ①	・交番に勤める人の1日の仕事を調べ、警察署の人々が地域の安全を守るために様々な仕事をしていることを理解することができる。	【知・技】 警察署の人々の仕事は、交通事故への対応だけでなく、広く地域住民のくらしの安心・安全を支えていることを理解している。	
		安全に登下校ができるように ①	・身の周りの設備や施設を調べ、警察署や市役所、地域の人々が協力して、自分たちが安全に登下校ができるようにしていることを理解することができる。	【知・技】 交通事故を防ぐために、警察署や市役所が協力して、様々な施設や設備を設置していることを理解している。	
		地いきの人たちとともに ①	・地域の人々がおこなっている様々な活動を調べ、協力して安全なまちづくりをしていく大切さを考えることができる。	【思・判・表】 地域の人々が協力して安全なまちづくりをしている目的やその思い、願いを考え、適切にまとめている。	
		市の安全を守るために ①	・学習問題についてわかったことを関係図にまとめ、市の安全を守るために自分には何ができるか、「さらに考えたい問題」をつくることができる。	【主体的】 市の安全を守る人々について関係図にまとめ、自分も地域住民の一人としてできることを考えようとしている。	
わたしたちにできること ①	・交通事故や事件からくらしを守るためにできることをポスターや標語などにまとめ、お互いの意見を聞き合い、話し合うことで、自分の考えを深めることができる。	【思・判・表】 ポスターや標語などをつくり、自分も地域の安全を守ろうとする思いや自分の考えを表現している。			

1 うつりかわる市とくらし

配当時間 全 15 時間
学習時期 1～3月 教科書 P.128～155

小単元「1 うつりかわる市とくらし」のねらい

市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、市や人々の生活の様子をとらえるとともに、それらの変化を考え、表現することを通して、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解することができる。

小単元「1 うつりかわる市とくらし」について

今と昔の写真の比較や博物館の見学から、市やくらしの移り変わりに関心をもたせ、三つの時代の交通や土地利用の様子、人口、公共施設の整備、くらしの様子や道具について調べ、年表に整理し、関連づけながら市の変化を表現する構成にしている。
その後、これからの市の発展について考え、実現のために自分たちには何ができるか考え、話し合うことで、自分の考えを深めたり広げたりする展開とした。

単元「1 うつりかわる市とくらし」の本時のねらいと子どもの学習状況を見取るためのチェックポイント（評価規準）

二学期制	三学期制	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	3 学期	1 月	大単元の導入 ①	・昔と今の市の様子の写真を比較し、昔と今では建物や交通、人々の様子が異なっていることに興味をもつことができる。	【主体的】 写真を比べて、建物や交通、人々の様子が昔と今では異なっていることに興味をもっている。
			博物館の見学 ②	・川越市立博物館を見学して、学芸員の話の聞いたり体験活動をしたりして、昔の市の様子や人々のくらしに関心をもつことができる。	【主体的】 博物館を見学して、昔の市の様子や人々のくらしに関心をもっている。
			市が大きくかわった時期 ①	・博物館を見学して出てきた疑問から学習問題をつくり、調べたいことや調べ方、まとめ方について見直しをもち、計画を立てることができる。	【主体的】 博物館を見学して、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしている。
			鉄道が通ったところ～交通のようす～ ①	・今からおよそ 130 年前から 80 年前に鉄道が通ったところの川越市の交通や土地利用の様子を、写真や地図などで調べ、まとめることができる。	【思・判・表】 鉄道が通ったところの交通や土地利用の様子について、博物館の人の話や地図などで調べ、変化の様子について考え、表現している。
			鉄道が通ったところ～人口や公共しせつのようす～ ①	・今からおよそ 130 年前から 80 年前に鉄道が通ったところの川越市の人口や公共施設の様子を、写真やグラフなどで調べることができる。	【知・技】 鉄道が通ったところの人口や公共施設の様子について、写真やグラフなどで調べ、理解している。
	2 月	鉄道が通ったところ～人びとのくらし～ ①	・川越市に鉄道が通ったところの人々のくらしや道具、さらには、大火事の前後の家づくりについて、絵や写真、博物館の人の話などで調べ、まとめることができる。	【思・判・表】 今からおよそ 130 年前の大火事があったところの市の様子や人々とくらしについて、絵や写真、博物館の人の話などで調べ、人々の生活がどのように変化したのか考え、表現している。	
		高速道路が通ったところ～交通のようす～ ①	・今からおよそ 50 年前に高速道路ができたところの様子を調べ、工業団地ができたこと、バイパスや環状線などの道路が整備され、自動車の数も増えていることなど市の発展とを関連づけて考えることができる。	【思・判・表】 市に高速道路ができたところの交通や土地利用の様子について、地図や写真などで調べ、変化の様子について考え、表現している。	

小単元の観点別評価規準

- ▶ **知識・技能** ……市の様子の移り変わりについて、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。
- ▶ **思考・判断・表現** ……交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子をとらえ、それらの変化を考え、表現している。
- ▶ **主体的に学習に取り組む態度** ……市の様子の移り変わりについて、学習の問題を意欲的に追究するとともに、これまでの学習を振り返り、学習したことを確かめている。また、これからの市の発展について考えている。

後期	3 学期	月	小見出し (○数字は配当時間)	学習のねらい	子どもの学習状況を見取るための チェックポイント（評価規準）
後期	2 月	高速道路が通ったところ～人口や公共しせつのようす～ ①	・市に高速道路ができたところのことを調べ、一つの大きな市ができたことや人口が大きく増えたこと、それに伴い現在の市役所や多くの公共施設が建てられたことについて理解することができる。	【知・技】 市に高速道路ができたところ、一つの大きな市ができたことや人口が大きく増えたこと、市役所や多くの公共施設が建てられたことを理解している。	
		高速道路が通ったところ～人びとのくらし～ ①	・市に高速道路ができたところの人々のくらしの様子を調べ、道具の移り変わりとともに、人々の生活の様子も移り変わったことを関連づけて考えることができる。	【思・判・表】 今からおよそ 70 年前の人々とくらしについて、絵や写真、おばあさんの話などで調べ、人々の生活がどのように変化したのか考え、適切に表現している。	
		川越市の今 ①	・現在の川越市や人々のくらしの様子について調べ、よりゆたかで便利な川越市にしようとしていること、これからは市の若い年代の人口が減っていく状況であることを理解することができる。	【知・技】 交通や電化製品などの道具でくらしが便利になったこと、川越市がよりゆたかで便利なまちにしようとしていることを理解するとともに、これから市の若い年代の人口が減っていくという問題に気づいている。	
	3 月	年表にまとめる ②	・市の移り変わりについて、これまで調べてきたことを年表にまとめる活動を通して、川越市や川越市の人々のくらしが、交通の発達や土地利用、人口、公共施設、道具の変化などによって発展してきたことを考えることができる。	【思・判・表】 交通の広がりや土地利用、人口、公共施設、生活の道具の変化によって、現在の市の様子や人々の生活がどのように変化したのか考え、関連づけて表現している。	
		市の取り組み ①	・少子化・高齢化の課題をもつ川越市や地域の人々は、市民のくらしの向上や川越市の発展のために様々な取り組みをしていることを理解することができる。	【知・技】 市民のくらしの向上や川越市の発展のために、川越市や地域の人々が様々な取り組みをしていることを理解している。	
		未来の川越市 ①	・自分たちの住んでいる市が抱える課題を解決し、よりくらしやすい市にするためにどのようなことが必要なのか考え、地域の一員として、自分たちにできることはないか話し合い、提案することができる。	【主体的】 これまで学習したことや「さらに考えたい問題」についての自分の考えをまとめ、話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりしている。	